事例No.	2426
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	ビジョン早田実行委員会

事例区分	地域活性化

タグ	・地域運営組織 ・人材確保・育成 ・関係人口

事例種類	地域振興

事例内容・タイトル

わが町、そしてかけがえのない故郷早田の存続に向けて

出典

平成26年度優良事例表彰一覧

三重県尾鷲市

全国過疎地域自立促進連盟会長賞

ビジョン早田実行委員会

わが町、そしてかけがえのない故郷早田の存続にむけて



早田大敷：町の基幹産業として共に栄えてきた大敷網。町と同様に高齢化が進み、担い手対策が必要となっていた。ビジョン早田実行委員会の漁業者部会では担い手対策やガンガゼ駆除などに取り組んでいる。

事例の概要

尾鷲市早田町は、高齢化率66.23%と、同市内の他地区に比べても過疎・少子高齢化が著しく、基幹産業である大型定置網漁をはじめとする水産業の振興や後継者対策などが急務であった。

このような状況の中、地域づくりの中心となる「ビジョン早田実行委員会」が産官学連携により発足し、生活・産業・人口問題などを多面的に捉えた地域活性化事業が、「自分たちのできることを、自分たちで可能な範囲で」という考え方のもと、住民主導で行われてきた。

また、㈱早田大敷などの『産』、慶應義塾大学や三重大学などの『学』、関係する行政機関などの『官』などとの協働により、地域資源である豊かな海・山の恵みを生かした地域活性化を図り、地域課題の解決実践に向けて、多面的に事業が実施されている。



笑顔食堂：尾鷲市元気プロジェクトの事業により生まれた笑顔食堂。ビジョン早田実行委員会の食担当部会としてワンコインで一人暮らしのお年寄りや若い漁師のためのお弁当として利用されている。

評価のポイント

過疎・少子高齢化が進む三重県尾鷲市早田町では、「限界集落」問題の報道に危機感を抱いた有志が県の中山間地域支援事業を活用し、三重大学の力を借りて、地域資源の発掘や課題を話し合う「ビジョン早田」や学生との交流会である「はいだといっしょ」を重ねながら、活動の合意形成を図り、平成２１年に「ビジョン早田実行委員会」が設立された。

実行委員会は、５つの部会（①漁業者部会②ホームページ部会③地域作り部会④防災部会⑤笑顔食堂）から構成され、地区住民の有志が関心のある部会に参加して、活動が進められている。例えば、漁業者部会は、漁業の担い手確保を目的とした「早田漁師塾」を運営し、漁業に興味を持つ若者を４週間にわたって受け入れ、漁業や漁村での生活を学ぶ機会を提供している。地区のお母さんたちも、彼らの暮らしを支えることでお互いの関わりが深まり、漁業就業者として定住する者が生まれている。

また、笑顔食堂は、女性たちが中心となる地域作り部会と連携しながら、「早田には食事のできる場所がない」という課題を解決するために、月に一度、高齢者のためにお弁当を作り始めている。お弁当の評判も次第に広がりを見せ、女性たちのさらなるやる気を生んでいる。

団体設立前から現在まで、時間をかけて丁寧にビジョンを作り、着実にその活動成果を積み上げ、また、地区出身者や関わりができた学生たちにも情報を発信し、「はいだサポーター」として活動を応援してもらいながら、早田地区では「限界集落」を払拭するような多彩で前向きな活動が生まれている。

このように、地区内部だけでなく「よそ者」とも交流し、その質の向上に努め、地域を前進させるビジョン早田実行委員会の取組は、「小さな自治」による地域づくりの広がりを見せる優れたモデルケースと言える。



町の敬老会：毎年敬老の日に開催される。笑顔食堂のメンバーでお弁当やお刺身、フルーツなどを準備し、地域作り部会のメンバーで出席者のおもてなしを行っている。



お正月だよ全員集合：１月２日の一大行事であったお弓行事は人数不足のため廃止された。お正月に帰省しても行事が無いので寂しいという声を聞き、餅つきやかるたなどで、みんなの交流の場を復活させた。



早田寒ブリ祭り：魚食文化の普及、特に熊野灘のおいしいブリをたくさんの人に食べてもらいたい。行政関係団体の支援も受け、ビジョン早田実行委員会の各部会が総出で第一回早田寒ブリ祭りを開催した。

DATA 三重県尾鷲市（おわせし）

団体名●ビジョン早田実行委員会
所在地●〒519-3702　三重県尾鷲市早田町6-3
（尾鷲漁協早田支所内）
連絡先●TEL：0597-29-2039　FAX：0597-29-2784
E-mail：visionhaida@gmail.com　URL:http://village.localblog.jp/owase-haida/

【交通のご案内】
自動車●紀勢自動車道 尾鷲北ＩＣから　国道42号、国道311号で約30分
鉄　道●JR紀勢線尾鷲駅からバスで約40分
飛行機●中部国際空港から自動車で約2時間30分



▶国勢調査人口（単位：人）

昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年
34,534	31,348	23,683	22,103	20,033

▶人口増減率（単位：%）

H22/S35	H22/S55	H22/H12	H22/H17
-42.0	-36.1	-15.4	-9.4

▶高齢者・若年者比率（H22年）（単位：%）

高齢者比率（65歳以上）	若年者比率（15歳以上30歳未満）
36.0	9.1